市民のひろば

母性愛

竹内冨二枝（稲生）

〝冬来たりなば春遠からじ〟寒さはまだまだきびしさがありますが、でもよく見ると、霜柱で持ち上げられた田土のやわらかい底の方から、かすかにかすかに春の足音が、カサッカサッと寄ってくるのが感じられませんか。地底の静かな温かい息吹きとは関係なく、地上の生活はますますスピードアップしてあわただしげに過ぎ去っていきますが、それでも春はやっぱり静かに訪れてきます。

先日来、保育所の入所受付も進み、春にはまた、可愛いい新入児が、オドオドした目やいたずらっ子らしいキョトキョトした目をしてはいってくるでしょう。また、同時に保育所への期待とわが子への望みをかけて、お母様がたくさん保育所に集まってくるでしょう。どの母親もわが子の幸せを願わない人はいませんが、「母親の愛」は常に問題を起しやすいのもいなめない事実です。よく安産や子供の幸福祈願の対象として信仰される鬼子母神は「母」の姿の象徴として仏法上では説かれている神様ですが、――

「鬼子母神は一万人もの子供を持つ女神であるが、わが子への愛が異常に強く、他人の子をねたみ、すべて取って喰ってしまう。そこで釈迦が一万人もの鬼子母神の子を一人だけ隠してしまったところ、狂気のごとく髪逆立ててわが子を探し求めた。そこでわが子への愛、他人の子への愛、女性、母の愛について釈迦が反省をうながした」

これは、女性の愛、母の愛がいかに自己中心的で偏愛になりやすいか、愛の善悪、表裏を説いたおとき話的教訓ですが、私も同じ女性として、母として時折ハッと反省させられるときがあります。

間もなく新しい集団生活にはいる子供たちのお母様方、わが子にだけ集中させる愛を、他家の子供にも向け、社会の子として、ともに助け合い、励まし合い一緒に育てていくよう、お力添えください。

さて、一年間手しおにかけた子供たちが巣立つ日も、霜柱の崩れる音と共に近づき、私の涙穴にも一しずくの水できがたまってまいりました。幼児期の保母の印象など、すぐに忘れるかも知れません。でも、鬼子母神のように一万人もの子供は生めなくても、生涯幼ない命をこの胸に抱ける幸せをかみしめて、私たちも頑張らなくては……。

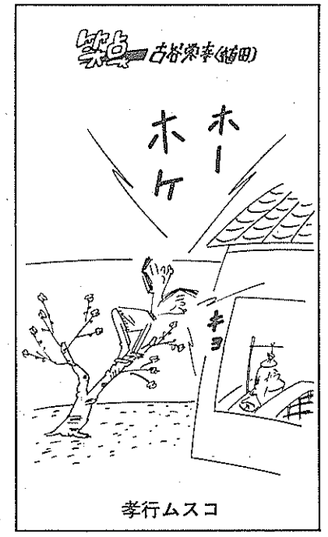
写真サークルが撮影会

『写真の好きなあなた、多数おいでください』――公民館活動の一環として活動を続けている〝写真サークル〟が、モデル撮影会を開きます。

■とき・二月十一日（金）
午前十時～午後三時

■ところ・浜改田琴平山山頂
■講師・大野数英先生
■料金・無料

なお、雨天の場合は二月十三日（日）に延期されます。くわしくは、市民体育館へおたずねください。



孝行ムスコ

広報委員の目

新春雑感

春風の吹かばおのづと山かげの
梅も桜も花はさくなり

初詣の朝、おみくじに書いてあった歌である。何かほのぼのとした歌である。今年こそよい年でありたいと胸をふくらました元旦の朝であった。

しかし、正月三日間の交通死傷事故が次々と報じられ、四日の朝刊には無差別殺人のコカコーラ事件、我が児殺し事件。県警のまとめた衆議院議員選挙違反に現職議員と保守系に違反多発と報告されているなど、暗いニュースがあまりにも多い正月であった。

飲酒無免許運転検挙欄には、毎日のように七～八名、多いときには十数名の名前が賑わしている。なかには社会的に高い地位にある人の名前も時折みかけられることもある。〝取締りをやるぜよ〟交通安全にご協力を〟と交通警察や行政がいくら呼びかけても、一向に違反が無くならない。社会が悪いのか、運転者が悪いのか、社会より家庭、全体より個人と、個人趣向型に、物の考え方が変ってきているように思われる。社会的な責任を考え、慎重にハンドルを握ってもらいたいものである。

高知空港拡張問題においても、五十五年度完成と知事が表明している以上、本年度から用地買収などと大きな動きが予想される。空港拡張はやはりすすまれる。高知県の交通も便利になります。周辺整備をやります。きれいになります。といわれても、フキンとオムツを一緒に洗濯するようなものではなかろうか。そのことは決して不合理ではない。むしろ合理的であるにしても、「きれいになります」「清潔に仕上りました」といくら説明されても、心情的には、きれいならば、清潔ならば、ではすまされまい。

大阪空港周辺整備のような大きな問題が残らないように、知事も市長も市議会も、受益者のためでなく、被害者である市民の立場に立って万全の策をお願いしたい。

暖かい風にさそわれて梅や桜の花が咲く、春の訪れのような行政を住民は期待している。

島村辰彦

つくし

思い出の故郷

清岡照子（立田）

九年ほど前から目を患い、薄盲の身となった私の生まれ故郷は福山の山近い田舎でした。

二十年前に父母を失ったが、兄姉妹は健在でいる。その故郷の土を目の悪い私が踏む機会があるだろうか、昨年暮れ、その姉が来ての話では、それまでの山里も都市化のなかにあるようだ。

里近くに私と同級生の父が住職をしていた田辺寺というお寺があり、その裏山の松茸をよく取りに行き、坊さんに叱られたことの思い出がある。『坊主、坊主の頭ははげ頭、八十がとまればつるりとすべる。すべる』と、悪口をならべながら逃げ出したものだった。

春はまた、一里ほど山深く入いった高益山へ、こどもばかりよく弁当持ちで行き、大風呂敷に沢山のワラビやイタドリを包み、背中に背負って帰えり、四、五軒の隣家へ配ばってよくほめていただいたものだった。

シメジ茸は、やはり田辺寺の山麓のじめじめした所に沢山あったように記憶している。しかし、そのときは坊さんが叱られなかったように思う、思い出せば懐しい限りである。

親子クイズ 65

ご家庭で話し合って答えてください。答えは今月号の広報に出ています。

■もんだい

1月15日、市民体育館で「南国市成人式」が行われ、○○○人がおとなの仲間入りをしました。

■しめきり・2月15日（火）
■おくり先・〒783　南国市大埇　南国市役所内　広報委員会　親子クイズ係
■答えのハガキには必ずお歳・職業を書いてください。
■しょうひん・特賞1,000円＝3人　残念賞（記念品）＝10人

第64回正解者発表

■こたえ・②○○人でした。
■特賞・1,000円＝10人

隅田幸子（後免町）山本昇（稲生）山本ゆかり（笠の川）門田幸俊（植田）島崎秀典（大埇）宮本絹代（後免町）竹村和枝（稲生）水田アヤ子（久礼田）大和田哲彦（稲生）末政卓也（田村）

■残念賞・記念品＝10人

葛目富士子（明見）杉本薫（住吉野）岡崎公子（定林寺）高橋佐知（植野）山崎千恵子（西野々）野久保活明（陣山）中村哲也（下田村）門田理恵（久礼田）前田武志（田村）永沢潔（明見）

おめでとうございました。これからもどしどしご応募ください。

南国俳壇

青きもの避けて走れり野焼の火　吉川　節（梵鐘会）
枯れ枯れて残る葉小さき吾をあぐ　林　広裕（〃）
うす雲を隔てて寒のゆるむ月　高橋　蛙（〃）
薪割って袖ほころびぬ冬ごろも　市原　遊亀（波俳句会）
寒鮒の箸にかかりし凍かな　浜田　東風（〃）
道の辺に稽積みて里冬に入る　竹島いはほ（〃）
冬蝶のいのち張り翔ぶ城の崖　和田ひでみ（岩村句会）
花柊夫の背中に問いかける　岡田　節子（〃）
虫の毛もさし得ぬまでに荒れにけり　池　さち（〃）
るわが手淋みし草引きにけり　永田　北村ますえ
外泊の父にみせやる華ぎし　前浜　沢田千恵子
かの子手柄のうなじが愛し　赤松のまばらに立ちて日は海に
沈みゆくなり冬の幕間に　領石　唐岩　勇

南国歌壇

万博より求めきたりし金杯に琴の音和してとそをいただく　里改田　楠瀬節子
くり言を言う人も居る室に居て黙して香る梅を見つむる　清風園　片岡光清
流れ雲の行方をじっと見詰むれば人生行路をしみじみ想ふ　下野田　竹村虎治